

経カテーテル的大動脈弁植え込み術により来した完全房室ブロック後の房室再伝導の検討

1. 研究目的・方法

高度大動脈弁狭窄症に対して外科的な大動脈弁置換術が困難な方を主に対象として経カテーテル的大動脈弁植え込み術（TAVI）が普及してきています。ただし、合併症として心房と心室の間で電気刺激が途絶えてしまう完全房室ブロックをきたすことがまれにあります。元々右脚ブロックや房室伝導障害を有する方に多く認められることが報告されており、中にはペースメーカー植え込み術まで施行した方もいらっしゃいますが、外来で経過をみていくと房室伝導が再開した方も少なくありません。

2018年12月までに、高度大動脈弁狭窄症に対して経カテーテル的大動脈弁植え込み術を施行された方で、完全房室ブロックを来しペースメーカーを留置された患者さんを対象に、その後の房室再伝導を評価検討します。

2. 研究に用いる試料・情報の種類

ペースメーカーの確認時のデータや心電図、診療記録を用いて評価検討します。

3. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

済生会熊本病院 循環器内科 研究責任者 金子祥三

住所 熊本市南区近見5丁目3番1号

電話番号 096-351-8000（病院代表）

以上